

第2回まちづくり交付金評価委員会 議事録

【司会：栗原都市整備課長】

本日はお忙しい中ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。
ただいまから、第2回まちづくり交付金評価委員会を開会いたします。
なお、前回の会議の際にも申し上げましたが、会議は原則公開となっておりますので、よろしくお願いいたします。

また、本日は、傍聴の方がいらっしゃいます。

また、審議に入る前でありますけれども、前回の資料はお持ちになっていらっしゃいますでしょうか。本日の資料は、机に配布してあるとおり、「数値達成状況一覧表」、それと「整備区域図」、この2枚でございます。

それでは、橋本委員長の議事運営でよろしくお願いいたします。

【橋本委員長】

それでは、第2回目の事後評価委員会を開催いたします。前回は、制度の概要から事後評価の原案の説明まで受けまして、今回の第2回は、冒頭から意見を述べていただくということで、活発なご意見をよろしくお願いいたします。ご意見につきましては、ふるさとの活性化のためにどうしてもうまい方法を検討したいと思しますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、早速でございますが会議に入りたいと思います。それで、私、冒頭にちょっとお詫びをしなくてはならないかと思うのですが、事務局とうまくやらなかったこともありましてちょっと反省をしているのですが、実は前回委員長ということでここに座りまして、会議を進めてきて今更どうこういうことではないのですが、自分で納得しないので、評価委員会の要綱をちょっと拝見させていただいたのですが、その中にやらなくてはならないことが2つばかりありました。それを省略してしまったので、その辺を今日委員の方にご説明をして、ご理解を得て、委員会を運営していこうと思しますので、ぜひよろしくお願いいたします。要綱の第6条に委員長の代理を指名しなくてはならないという項目があります。それを省略しました。それから、第9条に「委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める」と定められているのですが、それも省略してしまいました。本来の委員会からしますと、運営要領というものを作りまして、その運営要領の中に冒頭宣言しました公開、非公開、こういったものを要領の中に入れていく。それから

議事録についても、一般的に議事録署名人というものを委員長が指名して、それから会議に入るというのが一般的です。そういったものが要領にある。それから、前回私がお願いいたしました関係各課の方がなぜ出られないのですかということですが、本来要領の中で幹事ということで位置付けて、こうした委員会に参加ということが適当なのかと思うのですが、事務局としてはそこまで必要がないだろうということで運営を決めなかったのだろうと思います。そこで、今回改めて公開非公開ということを決めたい。それから、委員長代理ですが、今回委員の数が非常に少ないということで、委員長に事故がなかった、またその気配もない、ということでご理解いただければと思います。議事録署名人はだいたい2名というのが一般的ですが、この委員会3名ということなので、全員が議事録署名人になるということで、要領は作らないけれども、ご理解いただきたいと思います。それから、幹事につきましては、本当はご出席してほしかったのですけれども、お忙しい中でございますので、出席できないということでご理解いただければと思いますので、よろしくお願いたしますとともに、お詫びいたしまして、これから会議を進めてまいりたいとおもいますので、よろしくお願いたします。したがって、次第によって進めますと、2の審議ということになっていますので、前回の説明に続きまして、具体的にご意見がございましたらお願いしたいと思います。それで、方式がブレインストーミングということで、これから皆様方が出された意見をそちらの黒板に貼りまして、最後にまとめていくというやり方ということでございますので、ぜひその辺のやり方もご理解いただきまして進めていきたいと思います。

それでは、申し訳ありませんが、前回の説明を踏まえて事後評価の内容、手続き、方法書の内容、それから今後のまちづくりの方策、そういったものにつきましてご意見、ご質問がありましたらお願い申し上げます。

【橋本委員長】

あの、方法書の内容、手続きについては、よろしいでしょうか。別にこれやれ、こうやったらいいんじゃないかということについては、どうなのでしょう。そこらも踏まえまして、一番大切なのは今後のまちづくりの方策かと思っているのです。

【石塚委員】

よろしいですか。今、委員長が申し上げましたとおりですね、今までやってきたものを説教するのではなく、まちづくり交付金事後評価シートというのがありますけど、これを中心に今後どうするか、今こうなっているけど今後こうあるべきでは

ないかと。そういう意見に持っていかないと、今までやってきたもの、あれはあれでいいんじゃないかな、われわれがやる話ではないのではないかな、という気がする。これについて意見があったら出してくださいますかということに尽きるのかな、と思うのです。

【橋本委員長】

だいたいそういうことかなと思うんですね。今回委員会で出された意見については、反映できるように事務局の方で所定の手続きをしていただくという形でまとまるのかなと思うんですね。

【加藤委員】

石塚さんが言ったのは、この様式2のことによろしいですよ。

【石塚委員】

そう、様式2。今後の話だと思うんですね。

【橋本委員長】

事後評価の原案というのがこのシートになるわけですよ。ですから、これが最終形かなと思うんですね。

【石塚委員】

あの、よろしいですか。これはシートで申し上げますと、様式2-1ですね、評価結果のまとめという欄がありますよね。ここで、従前値と目標値と実績みたいのがある。この中で目標はですね、例えば1のJR宝積寺駅利用者数、これは75万というのが従前になっているわけですよ。目標90万人で、実際は776,265人という数字がありますよね。これは、これでいいのかという話になるんですけど、この辺のところをね、90万人に達成できなかったのは何か。この中で、今後どうすればいいんだという話になると、いろいろあると思うんですよ。ちよっ蔵のイベントとだけが目標以上に達成しているわけですよ。それで、ちよっ蔵の利用者層がどうなのか、分析する必要がある。まず、利用者数を上げるためにどうするかという話なんですけど、イベントや通勤通学、それと駐車場の関係がある。で、イベント関係は予定以上にいっている。いっぺいながら、駅の利用者少ないのはそこに何か原因があるのかという話なんですけど、この辺のところは、高校生の利用者が結構多いとなると、高校生は車に乗れないから駅利用が主なのかと思われるのです。ただ、通勤通学は、今、少子化時代で子供が少ない。ということになると、これからあまり伸びるというのもなかなか難しい。もうひとつは駐車場の問題なんですけど、

駅東に有料駐車場がありますが、なんか固定化しているように思うんです。というのは、利用料が結構安いんです。1日に500円ですよ。この辺で置けるところだと安いから、早く来てもう大体置く場所決まっているようです。ところが固定化しているから、駐車場がいつも満杯であると交換しない。民間駐車場だってあるけど、そんなに多い話ではない。では、今後の駐車場対策というのをどうするかという問題もあります。その辺によってはまだ、年間の駅利用者の数というのが増えてくると思います。

それとですね、2-2でまちづくり方策というのが表に出ていますよね。この中で、現在、宝積寺駅西第一区画整理事業やっていますね。この区画整理事業で宅地供給というのがあるんですが、宅地供給に加えて、これがいいかどうか分かりませんが、医療団地というものができないかなと思うのです。こういったものが医療団地というのは、確かヨーロッパではやっているところがあると聞いたことがあるのですが、ひとつの団地を造って、その中に歯医者、外科、内科、小児科など総合的な医療施設を作っているようで、そこへ行けば、ほとんどの用が足りる。そういう医療団地の誘致を考えてみてはどうかと思うのです。また、老人ホームのような施設を誘致するのもよいのではないかと思うのです。こういう施設ができることによって、町外から宝積寺駅を利用してここに来る者も増加し、活発になるのではないかと思うのです。委員長もご存知のように、自治医大の開発では、あの駅を造ったことによって、ものすごく駅利用者が増えているわけです。それは、自治医大の附属病院があるというのが1点。それからもうひとつは、あそこに区画整理事業で住宅団地を造りましたが、自治医大駅の利用者がものすごく増えている。こういうことを考えたときに、宝積寺駅もこれから少しでも多くの利用者を増やしていくためには、先ほど申し上げたように、医療団地とか老人ホーム的なものを誘致できないかどうか。確か国内でも、千葉の方であると聞いたことがあります。

また、宝積寺の駅周辺、東町の地区と西町の地区の商店街の活性化を図る方策はないのか。橋上駅をせっかく造ったわけですから、例えば東口がある駅広場と西口の方の駅広場を利用して、日曜日に朝市を東口と西口両方でやってみてはどうか。そして、東へ来た人は橋上駅通って西へ行く、そうすれば西町の活性化も図れるわけです。もしかしたら、朝市をやることによって、氏家の人とか岡本の人とかあるいは宇都宮の人とか来るかもしれない。この表の中に、隈さんが設計した建物を県内外、外国からも見に来ると書いてあって、それはそれでいいんだけど、なかなか

そればかりといってもわずかですから、朝市をやるなどしてみてもどうか。

もうひとつ、元気あっぷ行くのに、今ほとんどの人が車で行くということなんです。宝積寺駅の西口に元気あっぷのバスがありますが、あれをもうちょっとうまく活用する方法をPRしてはどうか。あれをもうちょっとうまく活用して、今後その中からイベントなり企画を考えてもらえればいいのかと思います。

それと、橋上駅の話をしました。橋上駅に、例えば、簡単な店ではないですが、並べたりすることはできないのでしょうか。

【橋本委員長】

鉄道と地元の自治体との管理負担協定とか費用負担協定があって、その中で出せるところと出せないところがあります。

【石塚委員】

そうですね。前に私、宇都宮の東口と西口の連絡橋がありますよね。ああいう施設に少し店出して何かしたらいいんじゃないかと。あれは何の時だったか、難しいといわれたんですよ。

【橋本委員長】

要するに、鉄道敷地内の施設については大体、鉄道の範疇であってなかなか外部の人が店を出すということは難しいのかなと思います。今はJRも厳しいので、自分たちに利益があるものは自分たちが積極的に出してやっているわけなんです。

【石塚委員】

例えば、上野駅に行くと、コンコース広場でいろいろな品物が売られている。ああいうのはできないのですか。

【橋本委員長】

あれもJRからのもので、みんな管理権を持っていますね。何らかの使用料を払ってやっているわけですね。ただ、もうどちらも何もしないのではどんどん落ち込んでいきますから、とにかく一所懸命なんでもやろうということ。

【石塚委員】

できないとあんまりあきらめてばかりではね。

【橋本委員長】

やっていますよね。東京駅の駅舎の中でもやっているわけですから。

【石塚委員】

そうですね。

【橋本委員長】

ですから、できないのではだめなんですよ。やらないとだめなんです。何でもい
いから発想してどんどんやっていくと。

【石塚委員】

誰がやるというのは別だから。それをやったり、アイデア出してこういう方向で
やるとなれば、誰がやるのか具体的に検討すればいいと思う。

【橋本委員長】

今日の目的は、ブレインストーミングの目的はこれがあるからだめだというの
ではなく、だめだということを除いてどんどん出していこうということでしょうから。

【石塚委員】

案が出たらやってみて、無理だったら無理なものをどうすればできるのかを考え
ればね。無理だったら引込まないで、無理だったら今度無理なものをどうすれば
できるのか、何をやるのかをどんどん出していかななくてはという感じがします。昼
間たまに駅に行ってみるのですが、人が一人もいないんですよ。せつかく億の金か
けて造っても、もったいないと思うんです。

【橋本委員長】

今のご意見の動きですが、今後のまちの方向性の中でも、この区域に絞って書い
ているんですよ。外との連携についてはひとつも書いていないんですよ。この
辺はやはり入れた方がいいと思うんです。それで、今やはり心配になっているのは
自動車社会ですから、自動車でみんな来てしまう。それをなんとかということ考
えていかないとまずいでしょう。元気あつぷ村だけではなく、鬼怒川緑地にしても、
ここは地形的にちょっと高低差の問題あるのかなと思うのです。ですから、駅から
誘導するような何らかの方法も考えられなくはないし、ただちょっと距離がね歩く
のがちょっとということがあって、じゃあ放置自転車をうまく集めて、乗り捨ての自
転車をここにそういう方式をもって勝手に往復して、行ったら行きっぱなしでいい
から、乗り捨てていいですよということでもやったらいい。そういうこともやって
いかないとまずいのかなと思うのです。

【石塚委員】

グリーンパークもそうなんですよ。グリーンパークまでただ歩いて行くだけで
なく、観光施設を造って結びつけることも1つの方法だと思うのです。観光という

のは、自然にあるものが観光ではないんです。観光とは造るものなんです。ですから、貸し自転車が合ったっていいわけです。そこへ乗り捨てればいいのですから。こうしたものをここに入れて、将来こうなるというのを考えてもらえればといいと思います。

【橋本委員長】

それに関連するのですが、やはり高根沢町だけだというのではなく、それ以外のところでやっている行事もあるんですよ。そのお客を途中で呼び寄せる方法を考えていかないと、独自で自分の所だけやっていたのでは、これはなかなか勝負にならないですよ。だから、何かの、例えば益子で陶器市があったなら、陶器市だけでは2時間もいれば飽きてしまうので、それを回遊させる方法とかね。それは、ほとバスがやっているんですよ。二宮ならイチゴでね。

【石塚委員】

烏山では山上げ祭りがありますよね。烏山線利用させる。山上げの帰りにお客さんをお呼ぶとか、鮎釣りとかいろいろなものがあるわけです。ここを起点に考えたらいい。宝積寺、高根沢のことをだけでなく。

【橋本委員長】

山上げはあれだけの人が来ますよね。ただ、まだちょっと物足りないですよ。私なんかお祭りが好きだからいろいろなお祭りに行くのですが、一番びっくりするのは風の盆ですよ。八尾、富山県の、あの祭りには1日20万人くらい人が集まるということでしょう。すると、八尾の周辺ではどうにもしょうがないので、富山から富山電鉄で送っているんです。それで、そのお客、駅前広場にびっちり埋まってしまうんです。電車に乗るのに。それがちょうど烏山線に似ているんですよ。八尾そのものに個人の車を入れないように全部ストップさせてしまうんです。タクシーと団体バスだけ入れる。後は全部その鉄道を利用してくださいということで対応していることなんです。もしその辺が烏山にもあれば、この鉄道をうまく利用するというのは非常に有効的だと思うのです。ここに車を置いてもらって、ここからピストン輸送してもらおうとかね、いろいろやってもらったっていいのかなと思うのですが、やはりそういうことで、周辺でかなり集客する行事というのが行われていると思うのです。そういったものの関連というのは、広域的な関連、近隣との関連、こういったものの要素というのはここへ、今後のまちづくりの方策の中に入れるのがいいのではないかと思うのです。

【石塚委員】

宝くじも人気があるので、宝積寺という地名を利用して、売場を造ってどうか。商工会でも考えられないでしょうかね。

【橋本委員長】

宝積寺というのはお寺があったんですかね、元。宝積寺という地名が出てくる、何かあったんですかね。

【石塚委員】

あるある。

【橋本委員長】

造ってしまえばいいんですよ。造ればいいんですよ。

【石塚委員】

何でもいいから造って。

【橋本委員長】

文化財関係者は忠実にやっているんで、そう言ってはまずいでしょう。

【石塚委員】

他行くとそういうのがあるんですよ。これはどうやって造っているのかなど。だけど、縁起担いでみんな買いに来るわけです。

【橋本委員長】

宇都宮のお城も最初厳しかったのですよ。歴史に忠実に復元しなさいということで、かなりそういう関係者から厳しい意見が出されたのです。それで、ぐるっと見に行ってみたのです。そしたら、造っているときから造る方法が厳しくないのです。ホッチキスで留めているんですよ。普通は小前を組んでちゃんと白壁を塗っていくんですよ。それがそうじゃなくて、ベニヤでべたべたと貼ってそれでホッチキス留めているのです。私はそれ見てこれいいのかなと思ったけど、考古学者たちが言っていることがちょっと理解できなかったんですね。だからびっくりしちゃった。ですから、いいんじゃないですかね。

【石塚委員】

宝くじとっしょにお守りを売るの。これは思いつきだけど、もうちょっといい案があるかもしれないけどね。

【橋本委員長】

売れば当たるからいいんですよ。いずれ当たるかもしれないから。

【石塚委員】

宇都宮の餃子も有名になりましたよね。宇都宮歩いていると餃子のうまいところどこですかと聞かれることもあります。今は、ただ待っていたのでは勝負にならないですから、マスコミを利用するなど、そういうのをやったほうがいい。

【橋本委員長】

ここも、もともと饅頭のうまいのがあるんでしょう、伝統的に。

【石塚委員】

宝積寺という由緒あるのがあるのだから、そういうのを利用して。1回きりじゃだめなんです。大金と宝積寺の切符、あれだけじゃ1回だけで終わってしまう。それを利用してどんどんいろいろなアイデアを出す、ということがいいのかな。一案として。

【橋本委員長】

私はこういったものを見ているとやはりPRですね。PRはPRしようとするとお金がかかるんです。それから、テレビはやはり重要視するんですね。金のかからない方法でやるということですね。それは、その番組を持ってきてしまえばいいんですね。そうすると、向こうでやってくれますからね。そういう形で利用するということは、やはり交流人口を増やすという方法として考えなくてはならないかなと思います。それから、冒頭に意見の出ました駐車場について、固定化している。確かに1日そこに置いて通勤に行くということがありますよね。宇都宮辺りでは、最近、駐車場経営者が月極と時間、30分くらいというのとやってみたら、30分くらいのほうがずっと利益が上がるらしいです。月極1万円とか1万5千円というのはほとんどなくして、最近はみんな30分100円ということに切り替えています。そういうことも考えていかないと、やはりだめなのかもしれないですね。回転数というのを。

【石塚委員】

商店の割引券みたいなもので駐車させるとか。割引券たくさん使ってお互いの駐車させるとか、駐車場の割引券みたいのを作ったっていいんですよ。そういうことで、宝積寺駅の乗り降りが活発になってくる。

【加藤委員】

私のほうでは、ゆうべ駅西側、あの広場も造成したということで、女性役員、公民館役員、ボランティアでお願いしたんですよ。ゆとりを持って来てもらうにして

も、西町のあの駅を降りては、ゆとりがなくなっちゃうんです。紅葉を中心として、さっきのグリーンパークの問題とか、それから鬼怒川のコスモス祭りとか、そういうものの発着点にするにしても、現在のあの駅の公園では誰も見る気はないし、降りても案内する人もいないし、看板もないということで、その辺のところどうするかという話しも出たんです。ですから、駐車場の問題で、今、西町では高齢者の方とか、廃墟になった家は全部更地にして、民間の駐車場にしちゃうんです。ですから、商店がパラパランとなってしまう。あのまま進んでいったら本当にとんでもないことになってしまう。駅周辺の駐車場というものをどう考えたらいいかというのは、私のほうから言えば、そうはいつでも歩いて来るというのも悪いような気がするんですけども、便利だからといって駅の周辺に駐車場ポンと造ると、駅だけがポツンとして回りは駐車場だけになってしまう。

【石塚委員】

やはり、医療団地や老人ホームを誘致することによって、町外からの利用者が増えてくる。利用者が増えれば、そこに行くのに何か手土産を買っていくと思うのです。そして、タクシーや商店、貸し自転車なども潤うことになる。さし当たっては、朝市みたいなのを何かできないかと思うのです。農業だけでなく、商店のほうも含めて。

【加藤委員】

ゆうべもその問題は何人かから出まして、月に何回かとか。

【石塚委員】

月に1回でもいいんですよ。

【橋本委員長】

フリーマーケットはやっていないのですか。

【石塚委員】

やっていない。

【橋本委員長】

そういったものをみんなばらばらでやらないで、うまくやるといいですよ。

【石塚委員】

去年は、西町、あれだって車入らないと大変だから。月1回だけだね。

【加藤委員】

交番を移転できればいいなとも思うのです。今は、公園が一体化になっていない

のですよ。それとタクシーがちょうどいいところに3つもあるので、ちょっとよけていただくと、駅前広場をもっと広々と使えるのではないかと。

【石塚委員】

歩行者天国ではないけど、子供でも危なくないようにやればいいのにと。やったらいい。まずそういうことをやって人集める。それはいいことだと思う。

【加藤委員】

あのままでは、公園に立ち寄ろうとして降りてきても、たいした魅力がないんですよ。

【石塚委員】

この間、高根沢では、オリオン通り、オリオンスクエアでイベントをやったよね。農産物直売所は結構魅力がある。今、食の安全などいろいろあるからね。だから、ここで月に1回でも朝市をやったら、地元の人じゃなく町外からも来ると思う。

【橋本委員長】

昔からの農村の行事はないのですか。宝積寺の中には。栃木だと蚤の市があつてね。花市とは別にその土地にあったその市が1週間に1回とか、何曜日に何時からとか。

【石塚委員】

みんなばらばらになってしまつてね。それをまとめる人がいない。

【橋本委員長】

十日市とか六日市とかそういうものを定着するようにやれば本当はいいんですよ。1週間に1回とか。

【石塚委員】

そういうアイデアとか企画は町で考えている。やらせるのはこっちなんだよね。町の人頭脳持っているから。頭いい人いるからいいアイデアがある。

【橋本委員長】

今までの話をちょっと聞くと、駅でイベントをやってきたことに満足しているようだったんですよ、私らが聞くのは。もうやったことについて、非常に誇りを持っているような説明を受けていたんで、それだとその気になってしまうんですね。対象はいろいろありますから、やはり全般に渡ってお客が集客するような行事をやっていないとまずいのかなと思います。それにはやはり、日本の場合は伝統というのが必ずあってですね、その土地には必ず行事があるんですよ。だから、そうい

う行事というものを掘り起こして、やる必要があるのかなと思うのです。この間芳賀町でやらせてもらいましたが、そういう形でちょっと講演会をやってくれないかということで、日本の行事に結びつくようなまちづくりの話をさせてもらったのですが、私が今日持ってきたのですが、全国のカレンダーなんですよ。お祭りの。それから県内の行事もここに入っていますので、これだけの行事が行われているということなんですよね。そういった行事を洗い出すことによって、お客を呼び寄せるといふ方法も考える必要があるのではと思うのです。

【石塚委員】

本県のもある。

【橋本委員長】

それは県民手帳のコピーしたんですが、誰がどう作ったのか分からないのですが、肝心なものが抜けてたりするので。桜の行事がちょっと、まあどこでも桜の時はいっしょにやるから意識的に除いたのかなと思うのですが、ちょっと桜の行事が少ないですね。

【石塚委員】

やはりこういう行事とかお祭りというのは、こういうものによって出入りが活発になりますから、これこそ千客なんですよね。

【橋本委員長】

こういう独特な行事というのは、日本は特殊なんです。他の国にないんですよ。特に江戸時代が300年近く安定した時代を迎えて、そのときに日本の文化というのは形成されていったんですね。だから江戸の空気がほとんど今継続されているという中で、たくさんの行事というものがあるし、全国にもあるし、自分の身の回りにもたくさんあるわけですね。ですから、そういった行事をうまく活用してイベントをやる。それから、他の行事をまあ盗んでくるということだと思うのです。私もこのところ、今年は孫を連れて鹿沼の泣き相撲ですね、それから足利のペタンコに行ったのです。足利のペタンコはとうとう目的を達成できなくて、人ばかりで。それくらい人が集まるのですよ。鹿沼の泣き相撲は、朝8時半頃に行ったらば、その時点で3時間待ち。それほど人が集まるのですよ。なぜ、そういうことをやらないのかな、ということなんです。不思議でしょうがないんです。それだけ人が集まって、それだけお金が入ってくるんですよ。1回ペタンコやるのに千円も二千円も取られないのですから、それをあそこに落ちていくんです。何でああ

うのを、分かっているんだろうと思うんだけど、やらないのかなと。不思議でしょうがないですね。安住神社ですか、その関連あるでしょう。ああいったものでもお客さん来るでしょう。あと、最近で集客力が凄かったのが、市貝のシバザクラですね。これは凄いですね、にっちもさっちもいかないですね、車で行ったのでは。だから、あんな僅かなことでもお客がどんどん集まってくるということで、その人たちはお金を必ず落としていくわけですから、それだけだって相当のことだと思うのです。なるべく金のかからない方法で、金を落とす方法と考えることが大切かなと思うのです。とにかく人口がどんどん減少していく中で、2、3日前に国土交通省が発表した交通量の問題でも、もうピークを越したということが出てきてますよね。交通量そのものもそういうことになった、まあ本当にそうなるか分からないですけど、全体的にそうなることは間違いないので、そういったところに期待して物事をやろうといっても、これはなかなか難しいので、やはりその地方地方にあったものを知恵を出し合って取り組んでいかないとまずいかなと思うのです。私はやはり、せっかくある伝統行事だと思うんですね。伝統行事が一番いいかなと思うのです。新たなものは、私らもずっとまちづくりでいろいろなところで引っ張り出されて相談を受けるのですが、最初の頃はみんな人口の定着力を求めているということなんですね。そういったものがだんだん分かってきて、その次に出てきたのがやはり、製造などのいわゆる工業団地を造れとかという話しになってきたんですね。最近では大規模小売店舗を造れという話しになってきたりするのですが、この近くでは上河内で小売店の話が出たんですが、私は猛反対をしたんです。というのは、小売店舗や製造業というのは、経済情勢によってどんどん利益のあるところに平気で移ってしまいますからね。ところで、大規模小売店舗というのは、もともとの底地というのは、自分で所有しないで借地でやっているでしょう。だから、いつでも逃げられる体制でそこに店を出してくるわけですよ。10年なら10年やってみてダメだったら、どんどんと引いていってしまうでしょう。ところが、日本の伝統行事というのは絶対に逃げないですよ。絶対逃げない。で、いい例を見ると、桜ですよ。桜は手っ取り早いんですよ。こちらでも桜の名所というのはあるのだけれども、特に桜の時期になると各地でやるのだけれども、あの賑わいというのは想像を絶しますよね。それほどお客が集まる。弘前の桜だって、まあどうにもしょうがないですよ。最近はですね、日本は観光立国ということでそれぞれの方が一所懸命力を入れているのですが、やはり中国、韓国その他の人が来るのは、富士山と

桜なんですよ。あと、米ですよ。米を買ったり、果物を食べたりと、日本のそういった食べ物が非常にうまいので、それを求めてくるようになっている。私はいろいろ見ると、電気製品が今のところ中心的に、秋葉原でも何かでも有名になって、そこに集中してくるのだけれども、やはり見たい本音というのは桜らしいですよ。それで、この間あそこの三春の滝桜をずっと1週間くらい泊り込んで見てきたんですよ。最初の頃、20年位前はほとんどお客来なかったのだけれども、最近はどういうやっというほど見に来まして、もの凄いですよね。だから、その中で、韓国と中国のお客さんが非常に多くなった。あの桜1本を見に来るんですよ、外国の人が。日本の桜というのはそれほど魅力があるということなんです。ここ、地元の人がまず気が付いていない、気が付いていないのです。そういったところをやはり見に行ってもらって、桜を見るのではなくて、集まってくる人たちの客層というものをみていただければよろしいのかなと思うのです。私はまあ、そういう形で日本の年中行事を探しに行ったというのは、一番最初トイレだったんですよ。衛生民生部にいる時に当時の部長が、日本のトイレが非常に悪いということで、特に公衆用が良くない公共施設のトイレをどう良くしたらよいかということを実験に考えろと言われてきたんですが、女性に対するトイレの数が非常に少ないということで、それなりに関心を持っていろいろな所を見始まったのです。見始まった過程の中で、行事、何十万人も集まったときにそのトイレ対策がいったいどうするのかで、結びついたのが行事なんですよ、年中行事。それで各地を見て回って、どういうトイレ対策をしているのかなというのを見て回ったのです。まあそれぞれみんな苦勞しています、確かに。だけれども、やはり金のかからないような方法をやっていますよね。一番私が感心したのは、天安門広場ですね。あそこは、あの広場のマンホール、あの大通りの下にどーんとパイプを入れておいてですね、処理場はないですよ、今はもうどうやっているのか。そこをどうやっているのかというと、マンホールの蓋を開けておくのです。その上に仮設トイレを設けて、したものはみんなどんどん流してしまふ。中国人は河川に捨てるものだという頭があるのです。日本でも昔は、物は川に捨てるということで、みんな川に捨てたのです。それと同じく、中国人は川に物を捨てるのが当然だという生活をしてきている。ですから、生活排水、雑排水というのをみんな川に捨てるということですかね。まあ、最近それがだんだん改良されているのだらうなと思うのですけれど、天安門広場へ行くとあれだけの人が集まるときにですね、あのトイレ対策どうするのかというところで、ちょっと気

が付いて見て来たのですが、広場の中にマンホールの蓋が並んでいるのはびっくりしました。それと同じものが青森県の酸ヶ湯温泉というのがあって、八甲田のふもとに酸ヶ湯温泉、私が若い頃、スキーの三浦敬三さんですか、雄一郎さんがこの間エベレストで70歳で登頂成功しましたよね。その人に直に教わったのですが、酸ヶ湯温泉に何泊か何人が連れて行ったのですが、あそこのトイレというのがクランク状にコンクリートを巻いてあるのです。家の下にクランク状コンクリートを斜めに巻いてあるのです。そこに家が建っている。その上にトイレがある。上から水を引いてそこに流れる。流れるときにはかなりの流量で来ますから、きれいになる。あれと同じようなことをやはり天安門広場ではやっている。まあ、今はもうやっていないのかなと思うんですね。トイレの見方からすると、まあそんな形になりますが、こちらでイベントを開くというときには、やはり女性のトイレ、特に女性のトイレについてどうするかということだけは考えてもらわなくてはいけないかなと思うんですね。

【橋本委員長】

それから医療団地ですね、大平で今度やるのですよ。日立の工場の、役場の南側の住宅地をきれいにして、あそこに医療団地、薬屋さんとそういったものを全部入れる。

【石塚委員】

千葉県にあるというのを聞いているんです。

【橋本委員長】

みなさんはこれから少子高齢化の中で、子育てと高齢者対応という中で、福祉というのは、ひとつのまちづくりの中心になっているんですね。意外とお年寄りの方は、結構お金落とすのですよ。茂木でいろいろなイベントやっていますよね、ホンダの。

【石塚委員】

かなり金を落としていきますからね。

【橋本委員長】

いや、落とさないよ。町に言わせると、非常に困っているんですね。儲からない。茂木の町長さん、若くてね活発で、ここの町長さんとうまいことやっているんですがね、真岡線の機関車あるでしょう。SLね。あれを走らせたときに、お客さん茂木降りたら何もありませんよ。何にも準備しなかった。で、お客さんは二度と来な

いわということで、リピート客いなくなった。普通だったらどんどん盛り上がっていくのだけれども、あんまり盛り上がりが少なくなってしまったというのがあるんですね。ですから、そういう行事があるときには、やはりそういった一体となって何かに取り組みないとまずいんですね。私の先輩で並木さんというのが野木町の助役だったときに、ひまわりをやった。いや、びっくりしたといったんです。PRが成功しちゃったんです。で、ひまわりの畑もあったのですが、来た人がお土産がないというのです。それで、お土産用意していなかったんですね。それで困って、次の年度から北海道からお土産を仕入れて、あそこじゃできませんからね、やったところが仕入れたものでは間に合わなくなったというのが、逸話としてありますから、そういうのは考える必要があるかなと思いますね。お土産は用意しないと、お金を落とさせるという方法としてはどうしても必要かなと思いますね。

【石塚委員】

結構年寄りの人を対象にするとね、結構これもうまくなれるんですね。東京だって、あんなに年寄り集まる所といたら凄いでしょ、今。年寄りはやはり金持っているしね。

【橋本委員長】

鹿沼のまちづくり委員会のときに、ちょっとお祭りの話ししますとね、東北の4大祭りの中で、それぞれ比較した話しをさせてもらったのです。私がトイレを中心に見に行ったのだけれど、そのお祭りのやり方とか何かを見てたのですが、東北4大祭りの内の、ねぶた、花笠、竿灯はですね、主役が動いているんですよ。一所懸命動いている、汗かいて。お客は棧敷席に座ってじっと見ているだけ。仙台の七夕は、七夕は動かない、お客が動くんです。しかも

【石塚委員】

お土産があるんですね。

【橋本委員長】

まあ魅力のあるお土産があるんですよ。それで、4大祭りをそういう視点で見てくださいよという話しをさせてもらったんです。まちづくりでああいう形で役に立ててくださいよ、という話しをさせてもらったのですが、隣の芳賀町で区画整理事業が終着してくるので、そのときのちょっと話しをしてくれないかという時にも、その話しをさせてもらったんです。そういう点では、主役は動かなくてもお客を動かして、金を使わせるようにして、お客をうまく動かしながらお土産をどんどん買

ってもらおうという方法を考えないといけませんよと。確かに仙台はずるいですよ。あの真夏の暑いときに、腐っちゃいますよ、早く食べないと腐っちゃいますよ、ということのをうまく演出しているんですよ。あれは見事ですよ、本当に。早く持って帰って早く食べないといけない。実にうまいですよ。ところが、青森はリンゴでしよう、時期が合いませんよね。秋田も合いませんよね。きりたんぼなんて食べないですよ。山形も干柿と合わないでしょう。有名なものが合わないのです。行事に。そこをうまくミックスさせないと、せっかくやっても意味がなくなっちゃうんですね。

【橋本委員長】

地産地消というのは必要ですよ、地場産業から考えても。やはり、そういう点では、やはり高根沢町の場合は農産物が主体なるのかなと思うのです。ですから、農産物と商売人がうまく手を組んでってもらおうといいのかなと思うんですけど、お互いのことばかり考えていたのでは、何もならないかなと思うんですよ。

【石塚委員】

それからもうひとつ、町に「花のあるまちづくり」事業があります。あれは確か20年位前だったと思うのですが、あれは町中を花いっぱいにするということだったのですが、なかなか成果が上がらない。なんなら思い切って、町の花団地みたいのを造ってみてもいいと思うね。

【橋本委員長】

これ、講演をしたときの資料をまとめた、ちょっとまちづくり講座のものなのですが、これの61ページにですね、高島町というのが山形県にあるんです。そこにべにばな国体を主体にしてまちづくりが始まったというのがあります。ある所で協議会をやった時にちょっとそんなことに係らせてもらったのですが、たまたまある人がまとめてくれないかということで、まとめて昨日できあがったので、2、3冊持ってきたので、あとで見てもらえれば何か参考になるかなと思って。

【石塚委員】

そういうのをあそこで、佐野でしたか。オオサンショウウオの。

【橋本委員長】

ああ、足利ですね。フラワーセンター。藤ですね。

【石塚委員】

あれはもう完全に。

【橋本委員長】

あれは町に寄付、近くの町内にあったのですね。それをこっちに持ってきて、それでその人は有名になって、女性の方がね、それでやっているのですが、私は藤岡町にそれを提案しているのです。何で藤岡に藤がないのか、と言って提案しているのですが、全く動かない。動こうとしないですね、言っても。

【石塚委員】

あれは相当まちの活性化を図れますよね。

【橋本委員長】

そうですね。あれはもう大変ですね、行くのがね。

【石塚委員】

いや、車置くのが大変だから。電車で行くほかない。

【橋本委員長】

それでシャトルバスを動かしているのですが、それにしても入りきれないですね、あれ。

今の藤の話なんだけれども、今、私は仁良川で区画整理をやっているときに新しい通りができるので、そこでしだれ桜を全部植えて、ひとつ名所にしましょうという事で提案したんです。そのときに、各家庭で、今千円未満で苗木が売っているでしょう。それをとにかく10年間育ててください、各家庭で。それで、それを過ぎたらそこへ植えてください、ということをお願いしてやっているんです。それがですね、私はその三春の滝桜に最初に行ったときに、苗木を1本買って来たんです。家に植えておくと大きくなってどうにもしょうがないですから、私のいとこが二宮で百姓やっているんで、土地がたくさんあるので、ちょうど山の肩のいいところがあるのです。そこへ1本植えたのですが、そのいとこが亡くなって10年以上経ったのです。この間、私もすっかり忘れちゃって、娘の婿さんがよく覚えてて、桜の花が咲きましたよ、ということなんですね。もう時期が終わってしまったので、そんな大きくなったのかと見に行ったら、これくらいの苗木だったんですよ。それがね、まだ14、5年経っていないと思うんですよ。こんなになった。今ちょうど見頃、桜、滝桜のままで、ここは名所になります。それはね、もうなんとなく気にしないで用意してもらえば、木はどんどん育つんです。今からやろうとしたって、それはすぐにはできないですから、そういうものは各自に用意してもらって、ある時期植え替えてもらおうということやるといいのかなと思うんですよ。なかなか

そういう準備をしてくれる人いないので。

【加藤委員】

元気あつぷの南側に親水公園あるでしょう。あの辺なんかは、ちょっといい名勝になれるみたいですね。土からなにかから、もう水辺のところに、ヤナギ、端から連なっている。だぼっと置いてあって。元気あつぷの温泉だけじゃなくて、駅西の公園が有効に連続で使えれば、私は西町の整備やらなくちゃいけないから、まずは駅西、駅の広場近くになんらかのものを建てるとか。それと、西町と鬼怒川はうまく結びつけられると思うのです。

【石塚委員】

何か、とにかく、だんだんなくなっていっちゃうような気がする、店がね。

【加藤委員】

それからさっき石塚さんが話した花いっぱいのもちづくりの話があつたでしょう。あれはね、ちょっと急かして悪いんですけども、各公民館が一所懸命、町のほうから5万とか10万とかお金もらうのです。そしたら、経理関係の報告書が厳しい。難しい。わずか3万、5万をもらって植えて、その報告からみんなえらくて、それでやめてしまう。

【橋本委員長】

そういうことですよ。

【石塚委員】

今、委員長がいったことに、野木だってひまわり団地を造って、あれが意外と全国で有名になった。そういうのもあるのだから。

【橋本委員長】

あれ、休耕中ですよ。

【石塚委員】

そういうところに金使ったほうが良いような気がします。今までは誘致というと企業誘致だけだったけど、企業誘致といってもなかなか今は難しいし。

【橋本委員長】

企業誘致はやはり、景気に左右しますから。良い時と悪いときがありまして、当てにしているときにだめになったとかね。今回の自動車産業なんてひどいですからね。今年だけじゃないですからね。来年からも影響しますから、そういったものの誘致は、嘘を付かないものを使ったほうが良いですよ。

【石塚委員】

せっかくこのまちづくりをやったので、今後は、今言ったようなことの中から検討してもらいたいですね。

【橋本委員長】

宝積寺のあのがけ地の利用というのは、段差があるでしょう。西側のがけ地の利用というのはできないんですかねえ。私、あれが良いと思うんですよね。あの段差を利用してやると、いいんじゃないかと思うんですよね。あれは国道から丸見えですからね、がーっと。あれ、なぜ利用しないのかなと思っているんですよ。あれをうまく利用したならば、駅から直ぐですよね。歩いていけます。国道のほうからでも行けます。私は、あの帯用地、ひとつの帯を利用すべきだと思うんですよ。なんであれを。

【石塚委員】

あの都市計画道路はここじゃないよね。向こうの清原から来る、説明会やったじゃない。

【橋本委員長】

408号線ですね。

【石塚委員】

4号線につながるのですか。

【橋本委員長】

はい。

【石塚委員】

あれに平行して、まず両サイドの方に何か考えられないかな。

【橋本委員長】

西向きだからあれなんですかね。東向きのほうがいいんですかね。なんだかちょっと分かんないけど。

【石塚委員】

いや、4号線からのほうが目立つから。かえって。

【橋本委員長】

栃木県の場合、なぜか段差がみんな未利用地になってぶん投げているのですよ。これを利用しないなんて、私は不思議で不思議ではない。あんところ利用できないですね。売るっていっても、売れないでしょう。みんなが所有者の方

にお願いをして、どうでしょうかねえ。

【加藤委員】

駅から西へ向かって4号線を陸橋で跨いで、鬼怒川縁に下りて、ゴルフ場とグリーンパーク、あの辺一帯にまた温泉かなんかもって来てくれれば、道の駅を周りに造って、そしたら集客できるものを建てられればいいと思うのですが。4号線跨いで正面からの大きな通りにでもできれば。

【石塚委員】

でも、あれ反対されちゃったでしょう。

【加藤委員】

反対されちゃったけれども、道の駅とか温泉とか、そういう総合的なものがあればいいなど。そして、あそこは男体山から高原山からね、よく見えるのです。

【橋本委員長】

あの眺めというのはちょっと、ねえ。あれはなかなかないですよ。本当にないですよ。

【石塚委員】

農業ビニール団地とか農産物もね

【加藤委員】

道の駅か農産物をね。

【石塚委員】

休養して温泉も入れるし。そしたら、ゴルフ場とグリーンパークと一体的になって。

【加藤委員】

一体利用というのができるはずだったのだから。これから役場で頑張ってもらえれば。

【石塚委員】

まあ、とにかく、今言ったようなことが良いと思うけど。それにはいろいろ難しい問題もあるのだけれど、せっかくここまで投資してやったのだから、このままにしておくということじゃなく、今後こういう風にしたらいいんじゃないか、ということだよ。

【加藤委員】

東西が相まってやる、このところを早くやることだと思うのです。ゆうべの話

じゃないけど、本当に寂れちゃったから。最近変わってないんですよ。鬼怒川を見に来る人も困っている。案内板とかマップなどいろいろなものを置いて、よその人を取り込んでくる。夢みただけど、大きな神社を造って。

【橋本委員長】

国分寺の天平が丘ですね。あれは、若林さんが町長になったでしょう。その前、総務課長をやっていたのです。その総務課長の時からの発想なんです。私がたまたまそこで立体交差の設計があつて、私が担当して設計をやったのです。その時に、泊り込みでやっていたときに、その総務課長さんから相談があつて、とにかく名所を創りたいということで始まったのです。私が提案したのは、今までの桜というのはみんなソメイヨシノなので、ソメイヨシノというのは4月頃咲く。肌寒いんだと。お酒を飲んでいる人でもそうなんです。天候も荒れている。そういうときに咲くのではなく、もう少し暖かくなってから咲く桜を選定しなさいよということで、じゃあ何があるんだといった時に、これは八重桜ならばちょうど5月の連休のちょっと前に咲き始まって、連休の頃ということで、暖かくなってから。それで人気が出てきた。その後いろいろな桜を植えるようにしましたよね。ですから、その時期にその近くで、その時期はあると思うんだよね。それに合わせるように、どのようなものを持ってくるというのが大切だなと思うんですね。カンザンという桜だったんですね。でも今になってくると、何かちょっと違う桜のほうが派手かなと思うんですがね。当時はあまり種類がなかったものだから。

【加藤委員】

昔は鬼怒川の土手に桜があつて、ゴルフ場の堤防の所にね。今はダムができたんだから、桜があつてもいいんだけどね。

【石塚委員】

今は大丈夫ですよ。さくら市で植えましたよ。今は大丈夫なんですよ。昔はね、堤防に植えると風が吹く、堤防が壊れるとか言っていましたけど、今は変わってきましたよ。

【橋本委員長】

いや、そうではなくて、堤防といつてもいろいろな堤防があつて、堤防の裏にスーパー堤防といつて後ろに少しくっつけるんですね。そこに植えている。そうすると大丈夫なんです。昔は、かみそり堤防といつて細い堤防沿いに植えてしまうから、みんな堤防が崩れてしまう。ちょっとね、スーパー堤防を後ろにくっつけてくれ

ば、せっかくやるんですからね。そういうときにやればいい。ひとつだけの仕事でやろうというのは、すごい難しいですよ。いろいろな仕事が協力してやると、いろいろなものができるのかなと思うんですよ。

それと、骨董好きではないけれど、テレビとかで骨董のことやって人気あるでしょう。ああいうのをうまく持ってくる。あのテレビの行事を持ってくるというのは、ひとつの大きなPRになりますよね。テレビというのは人で来るんですよ。人をうまく使って持ってくることを考えるといいのかなと思うんですよ。

【石塚委員】

いろいろアイデアを出せば、あと誰がやるとかなんかというのは、高橋町長得意だから大丈夫ですよ。町長少し抱えて、いろんな意見出ましたよ。これひとつでもいいからやはり実行に移すようにやりましょうよ。やはり、若い人だよ。若い人動いてもらわないとだめだから。

ところで、今のようなものをまとめて提出するというのが、委員会の役割ですね。

【橋本委員長】

これで済んだんですよ。

【司会：栗原都市整備課長】

そうです。それでですね、本来はいろいろな意見を出していただきましたので、これを機会に分けて、それでこういう判断が出たのでこれをこのような方向に具申しますよ。で、具申する内容をまとめて、これでどうでしょうかという形になります。

【橋本委員長】

最終的に国土交通省に報告して、終わりということになるということですね。

【司会：栗原都市整備課長】

はい、そうです。

【石塚委員】

なるほどね。

【司会：栗原都市整備課長】

実際こちらで聴取したものを町長に具申しようということで整理をして、各委員さんのところへ伺って、いいだろうとなれば、これで終了となります。

ただ、いろいろと出していただいたのですが、これらをまとめて、こういう記載

にしようと、まとめなくてはいけないんですね。

【橋本委員長】

それはお任せします。私らがどうこういう筋合いではないので。ただ、委員会として、私は、ちょっともうご意見がないようでしたら、まとめたらいいと思うのですが、よろしいですか。

【石塚委員・加藤委員】

はい。

【橋本委員長】

一応まとめてよろしいですか。

【石塚委員・加藤委員】

はい。

【橋本委員長】

意見もいろいろ出し尽くしたようでございますので、とにかく今回の委員会で諮問されました評価書面ですね、方法書が何がとか、評価シートの原案、それから今後のまちづくりの方策、こういったものにつきましての、今までの経緯などにつきましては、説明で概ね妥当であるということでもとめたいと思います。実は、私、本日の委員会、こういったものにつきましては、これから諸般の手続きを行われると思いますので、この意見を反映した評価シートにさせていただきまして、それぞれの手続きを行っていただきたいということでもとめたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

【石塚委員・加藤委員】

はい。

【橋本委員長】

そのようにしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【司会：栗原都市整備課長】

それでは、今、委員長からご指導ありましたとおり、国土交通省に提出までの手続きとして、今後の事後評価の予定でございますが、今回の評価委員会の具申を踏まえまして、事後評価のシートの修正をいたします。必要な事項を加筆をした後、国土交通省に提出となりますけれども、その後、国土交通省のほうから指導や助言があると思います。公表については、21年3月になる予定でございます。なお、今回の事後評価につきましては、各目標の計測について確定値が計測できておりませ

るので、現時点での計測地のままの見込み値でございます。したがって、翌年度確定値が得られた段階で、再度計測するというご承知願います。

この後、部長のほうから最後に挨拶がありますので、よろしくお願いいたします。

【小林建設産業部長より挨拶】

皆様には、長時間に渡りましてご審議いただきまして大変ありがとうございました。私どものこの中心市街地につきましては、平成14年当初からいろいろと議論させていただいて、宝積寺駅周辺をですね、整備してまいったわけでございますが、何分にもこの状況を見ますと、今日皆さんからご指摘賜りました案件に関して、私のほうから駅西も含めまして、全体計画を再度見直ししながら、計画していく所存でございます。そういう意味で、本日賜りましたこの事後評価の結果をですね、課題といたしまして、更なる検討を加えてですね、この宝積寺駅周辺の全体的な計画を練り直して、また、新たなまちづくりに寄与したいというふうに思っておりますので、今後とも、先生方というか委員の皆様方には、当初からご支援賜って、またご指導賜れば幸いというふうに思っておりますので、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、御礼のあいさつとさせていただきます。本当にありがとうございました。

【橋本委員長】

これをもちまして、第2回目のまちづくり交付金評価委員会は終了いたします。大変長時間に渡ってのご審議、ありがとうございました。

高根沢町まちづくり交付金事後評価委員会

委員長 橋本和孝

議事録署名委員 石塚良徳

議事録署名委員 加藤晴一

第2回まちづくり交付金評価委員会 傍聴者名簿

平成20年11月28日 午後1時30分～

No.	氏名	住 所	備 考
1	得丸史郎	東京都新宿区西新宿6-5-1 UR都市政策 東日本支社	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			